

研究分野のキーワード：保育カリキュラム，遊びと学び，幼保小連携，外国人幼児の保育，保育制度

研究紹介

私は、幼稚園や保育所の生活の大部分を占める「遊び」が充実し、子ども達が満足感を感じられるようにするためにはどうすればよいか、ということに興味があります。そこには、遊びの具体的な内容がその子どもの発達に合っているのか、保育者の関わり方が適切であるか、子ども自身が主体的に創造的に生活できるような環境的条件が整っているか、等が関わってきます。さらには、そのような生活を保障できるような保育者の労働環境も問題となってきます。

そこで、私の主な研究について、以下の3つにまとめて説明します。

1. 幼児期の教育課程・保育課程の編成に関わる研究

現在、主として取り組んでいる研究課題は「①幼保小の生活や学びの連続性について」です。小中学校等での学力低下や学習意欲の低下、小学校入学後に集団行動がとれないなどの課題を受けて、現在、幼稚園・保育所と小学校との連携や連続性が求められています。しかし、小学校教育の早取りや準備教育では、幼児期の特性をふまえた保育とは言えません。小学校1年生の授業や生活の様子を観察し、幼児期の遊びや生活が小学校入学後の教科や生活とどのようにつながっているのかを研究しています。

そこに関連するテーマとして「②保育カリキュラムの編成方法」「③幼児は遊びを通して何を学ぶか」「④年齢別の保育目標・内容・方法」があります。幼児が主体的・自主的に展開する遊びは、幼児の問題解決能力や創造性、社会性、知的好奇心などを育てます。しかし、幼児が遊べるためには、それ相応の教材準備が必要です。保育を観察しながら、幼児が何に惹かれ何を面白いと感じているのかを探り、そこでの保育者の適切な関わり方について考えています。

2. 外国人幼児の保育に関わる研究

愛知県は、全国の中でも外国人労働者が多く居住し、保育所を中心に幼稚園でも外国人幼児が在籍しています。しかし、日本語を母語としない子どもが小学校に入学した場合、学習言語がわからず授業についていけない状況が生まれています。小学校での学習を保障できるような幼児期の支援はどうすればよいか、研究しています。

3. より良い保育実践を支えるための保育制度上の諸条件に関する研究

乳幼児にとってより良い保育を保障するためには、それに応じた保育者の就労環境や制度の改善が必要です。現在、保育所保育士は正規職員が削減され、代わりに嘱託・臨時職員が増加しており、正規保育士の職務や責任が増大するとともに、嘱託・臨時職員不足が生じ始めました。正規職員の中にはメンタルな問題で中途退職するケースも見られます。保育者と乳幼児にとってより良い制度になるように、特に若年保育者への支援方法を考えているところです。